



## 編集後記

筆者は多趣味である。

そもそも子供時代は読書が大好きで、活字中毒を自負していた。それが高じて、今でも本を読む頻度は減ったが、クロスワードパズルが電車通勤の必須アイテムである。

プラモデル作りが好きで、小・中学生時代は第2次大戦中の名機や名艦を作り、途中からレーシングカーを中心にクルマの模型を多数手がけた。

自動車に関しては、小学生時代から毎年モーターショーに通い、道行く車を形式名で呼んだりしていた。インディ500やフォーミュラーの中継に熱中し、深夜までテレビにかじりついて寝不足になったりしたおかげで、2007年にはPHPから「F1の秘密―マシンの超技術から、レースの裏側まで」という文庫本を、さらに2009年には清流出版から「究極のスピードインディカー―F1を凌ぐ迫力」という本を上梓させていただき、モーター・ジャーナリストの一員となった。

クルマといえば、子供時代に憧れた

スポーツカーへの夢はまだまだ現役で、1974年型のイタリア製のスポーツカーを所有し、騒音で近所の響きを買っている。

中学生の頃に始めたギターは今でも弾き続け、部屋にはいくつものギターが存在している。ごく希に、馬頭琴奏者のセーンジャー氏やその仲間とライブハウスやコンサートのステージで演奏したりもする。そのコンサートの主催者としてイベントのプロデュースをすることもある。

高校生の頃にレコードを聴き始め、ロック少年だったのはそのまま引きずって、いまや2000枚近いCDと暮らしている。始まりはロックだったが、いつの間にかジャンルを超越し、ジャズやクラシックまで揃っている。それが高じて、音楽を中心としたラジオ番組のパーソナリティをもう10年以上続けてきた。

食べるのが大好きで、あちこち食べ歩いているうちに、いろいろな飲食店で聞いたり盗んだり、たまたまお知り合いになった服部幸應先生にご教示いただいたりで、とうとう自分で調理するようになっていく。

とにかく何かに一旦興味を持つと、

かなり深くまで追求することが常であり、なかなかどうして「飽きる」という状況にならないのだ。

おかげで、筆者は「雑学」という一芸ではなく多芸に染まる居士となつてしまったようで、一般的に言う「二芸に秀でる」ということができない。簡単に言ってしまうえば「器用貧乏」を絵に書いたような有様である。

昨今、「断捨離」なる言葉が大流行である。

物の本に扱えば、「断捨離」とは、不要な物を断ち切り、物への執着心をなくすことで、身軽で快適な生活や人生を手に入れようとする考え方のことであり、断捨離のそれぞれの文字には、だんぎょう捨行・しやきよう捨行・りきよう離行の意があるそうだが、とうてい「断捨離」は筆者には無理な相談で、様々な事象に首を突っ込んで、いつまでもズルズルと引きずりながら付き合っていくことになりそうである。

だから、座右の銘は「捨てない、止めない」だ。

こうなったら、何処かの場所で「雑学」をお伝えすることができないだろうかなどと考えている今日この頃なのである。

(溪)

# 月刊 公論

12月号 第55巻12号

令和4年12月1日発行 毎月20日発売  
本体価格1,100円(税込) 送料87円

発行人 大中 吉一 編集人 林 溪清  
発行所 株式会社財界通信社  
〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町10-12 ボナフラワービル  
TEL.03-5379-5611(代) FAX.03-5379-5616  
印刷所 株式会社広済堂ネクスト  
取次店 日本出版販売/楽天ブックスネットワーク

- 直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。
- 万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。